

# いざという時のために知っておきたい セカンドオピニオン

## 実践術

### POINT 2 聞きたいことを整理。納得できるまで質問する

いざセカンドオピニオンの場になったら、動揺して知りたいことを質問できない人も多いだろう。そうならないためには、「**聞きたいことを事前に整理し、メモしていく**といいでしょう」と團先生。また、現代の医療は、患者と医師の間に、公平なコミュニケーションと信頼関係が必要というのが共通認識。「患者さんに、一方的に説明を押しつけるような医療は通用しません。セカンドオピニオンであってもなくとも、**納得できるまで説明してもらいましょう**」。

### POINT 1 医師への遠慮はいらぬ

多くの病院の待合室やホームページには、「患者さんの権利と責務」※が掲示されており、**セカンドオピニオンを求めることは「患者の権利」であると明記されている**。「医師も、大きな病を抱えた患者さんが、別の医師の意見を聞きたいと思う気持ちは、理解しています。遠慮などせず、自分の意思を示してください」。もし、手術の日程を決めた後であっても、それは同じ。「正直に、『先日は頭が真っ白になってしまい、手術を決めてしまった。セカンドオピニオンを受けて考え直したい』と伝えるのがいいでしょう」。

※名称は医療機関によって異なる。

### POINT 3 かかりつけ医と連携する

セカンドオピニオンを受けるなら、どんな医師がいいのだろうか。「**手術が必要かどうかの確な判断ができること**。また、**検査データや数値だけでなく、生活習慣やそのほかの症状なども含め、診断してくれること**。この2点を備えた医師が理想的です」。どうやって探せばいいかわからない時は、「まず地域の総合内科医に相談を。幅広い分野の専門医とネットワークを築いている医師も多いので、病気を俯瞰的に捉え、その患者さんに適した専門医を紹介してくれるはずだ」。

### セカンドオピニオンと似て非なる ドクターショッピング

診察内容に納得できず、むやみに何度も病院を替えることを**ドクターショッピング**という。現代の医学では、標準的な診断方法や治療方法は決まっている。どの病院でも同じような検査をし、同じような薬を処方され、結果はあまり変わらないことも多い。どうしても納得がいかねなければ、主治医にその思いをきちんと話そう。**相応の医師を紹介してもらい、セカンドオピニオンとして受診するほうが、金銭的にも時間的にも効率のいい治療が受けられる**。



# 【セカンドオピニオン】

セカンドオピニオンという言葉は知っていても、実際に利用する人はそう多くありません。そこで今回は、セカンドオピニオンについて総合内科専門医の團茂樹先生に話をお聞きしました。

取材協力：ティーベック株式会社



### 監修 團茂樹先生

宇部内科小児科医院院長。総合内科専門医、医学博士。1982年日本大学第一内科大学院修了、カナダ州立オンタリオがんセンター留学、那須中央病院内科部長、千代田漢方クリニック院長を経て現職。東洋医学にも詳しく、ていねいなスクリーニングによる漢方薬の処方に定評がある。

© kokoroyuki / amanaimages PLUS



### 命にかかわる 病気の時こそ利用を

大きな病気を患った時や、その疑いがある時、診断や治療方法に疑問を持つ人も少なくない。そんな時、主治医とは別の医療機関の医師に「第2の意見」を求めることを、セカンドオピニオンという。しかし、実際には躊躇する人が目立つ。その理由には、「受けた方がいいのか判断できない」という声が多い。「がんや動脈硬化、心筋梗塞など、大きな手術が必要で、かつ命にかかわる病気の時は、セカンドオピニオンをおすすめします。場合によっては、2ヶ所でセカンドオピニオンを受けてもいいでしょう。もし主治医と同じ見解だったとしても、その病気に對して理解が深まれば、納得して治療に臨むことができるはずだ」。

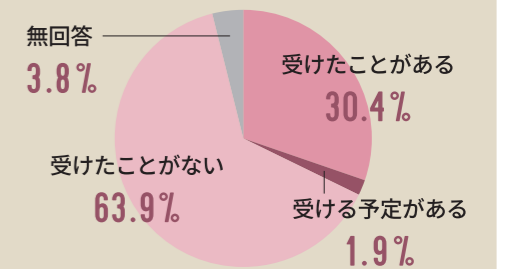
團先生は、患者のMRI検査やCT検査などに気がかりな点があると、セカンドオピニオンをすすめている。「それがきっかけで、より正確な診断や迅速な治療を受けられたら、患者さんのためになるからです。さらに、別の医師が違った角度から診ることで、主治医では気づくことができなかった、別の問題が発見できるケースもあります」。

また、「主治医にいろいろ」という理由で、こっそりドクターショッピング（左ページ参照）をするのは避けたい。これまでの検査結果や治療の経緯がわからないと、同じ検査を繰り返すことになり、治療の遅れにつながりかねない。「患者さんの『1番の主治医』は、自分自身です。自分が納得して先に進むためにセカンドオピニオンが必要だと思ったら、遠慮せず主治医に相談してください」。

### 必要性を感じても 実際の利用率は約3割

#### セカンドオピニオンの経験の有無

(対象：必要だと思う者のうち、外来患者) 岩手県、宮城県および福島県を除く



#### セカンドオピニオンを受けなかった理由

(対象：必要だと思うが受けたことがない者のうち、複数回答上位3つ。外来患者) 岩手県、宮城県および福島県を除く

- 1 受けた方がいいのか判断できない 30.8%
- 2 どうすれば受けられるのかわからない 28.9%
- 3 主治医に受けたいといいたい 25.5%

\*厚生労働省「平成23年受療行動調査」